

個人的見解

- センシング、予測、実証実験、可視化、プランニングなどの分野では I C T 関連技術を活用することの可能性は大きい
- 一方、いわゆる「まちづくり」においては、合意形成プロセスで「人（の気持ち）を動かす」ことがカギ
- 試行錯誤を重ねながら「共感」を得るという「まちづくり」のプロセスと、I C T 関連技術をどう融合させるのか、技術革新と有効性を実感できる社会実装の取組に期待

今後の取組

- 滋賀県では、人口減少下でのまちづくりのあり方を議論し、まちづくりの基本方針を検討する予定です
- **「コンパクト・プラス・ネットワーク」**の形成を軸として、誰もが暮らしやすいまちづくりを目指すための考え方を県内市町に提示したいと考えています
- ICT技術の活用については予算の制約もありますが、活用できることを期待しながら、検討を進めたいと思います

おまけ

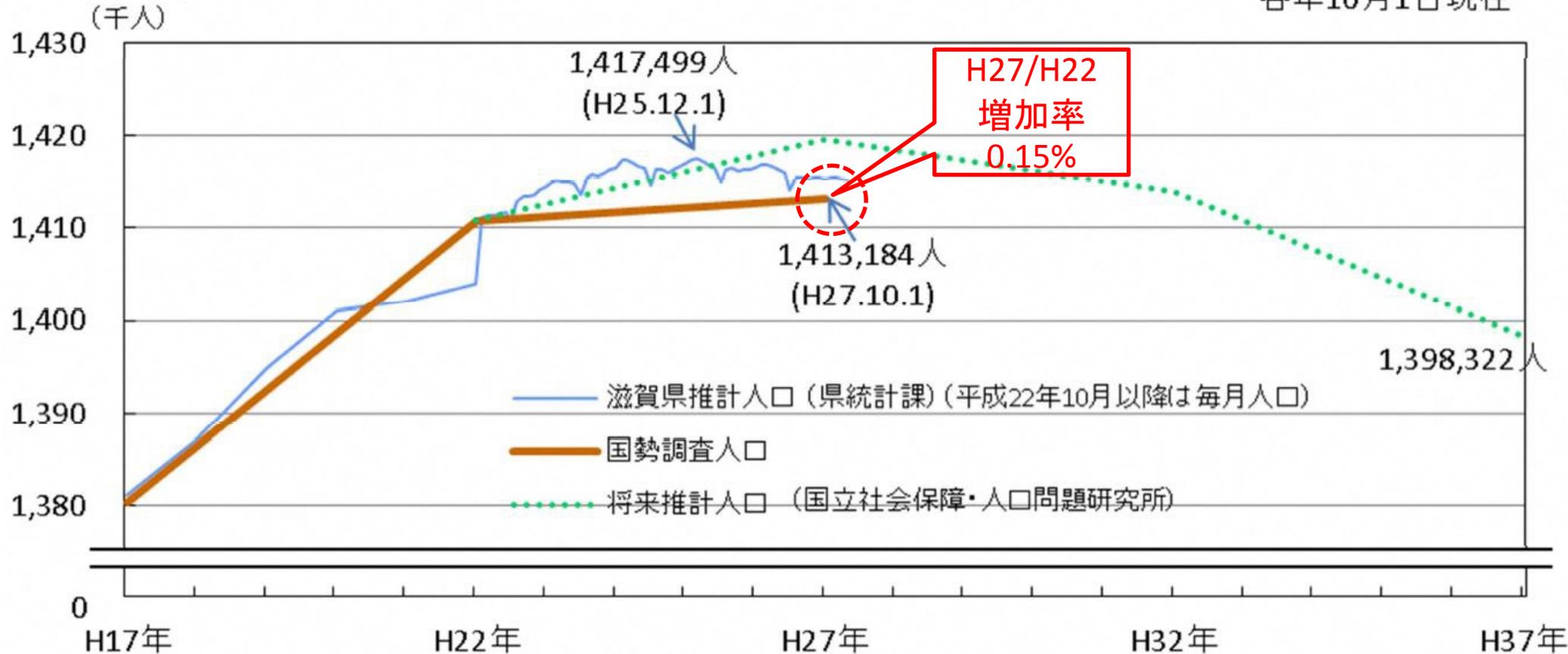
- 今から、滋賀県のまちづくりを検討する上で、参考となるデータを提示します
- コンパクト・プラス・ネットワーク形成を目指したまちづくりに向けて、課題解決の方向性についてどのようなことが考えられますか？
- ICT技術の活用方法としてどのようなことが考えられますか？

滋賀県の人口

- 県人口は、ピークを過ぎて減少していると考えられる

① 滋賀県における人口の推移

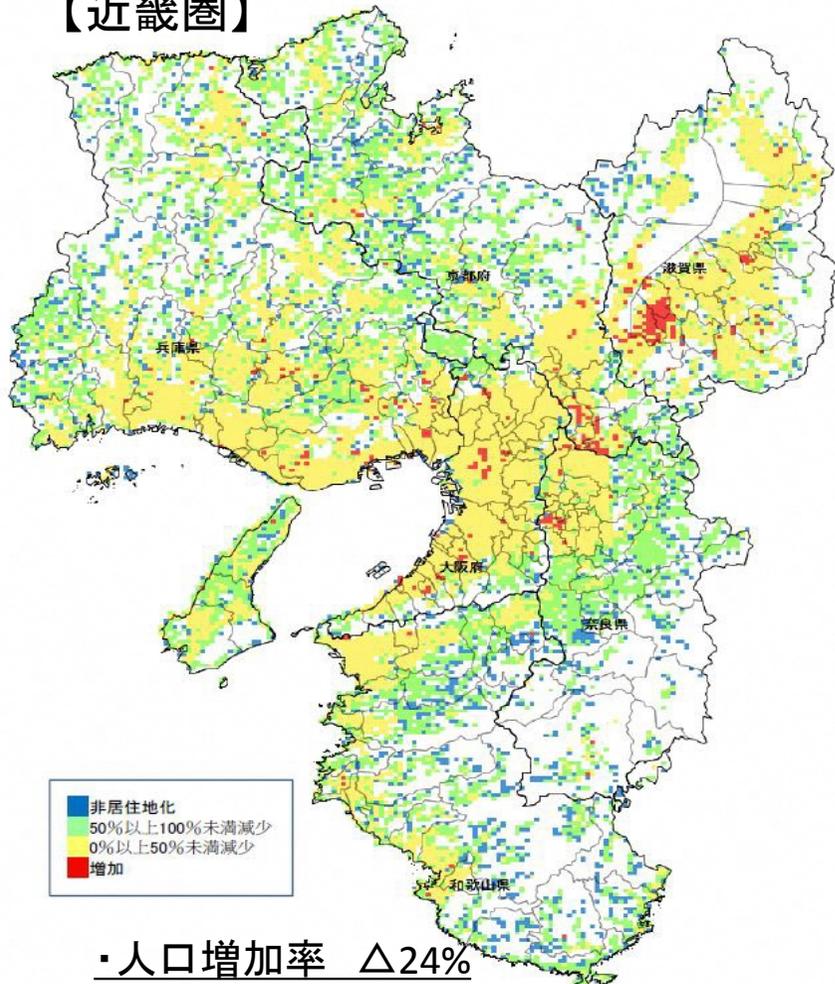
各年10月1日現在



※滋賀県HPより

人口の動向 (2010年⇒2050年の変化率)

【近畿圏】



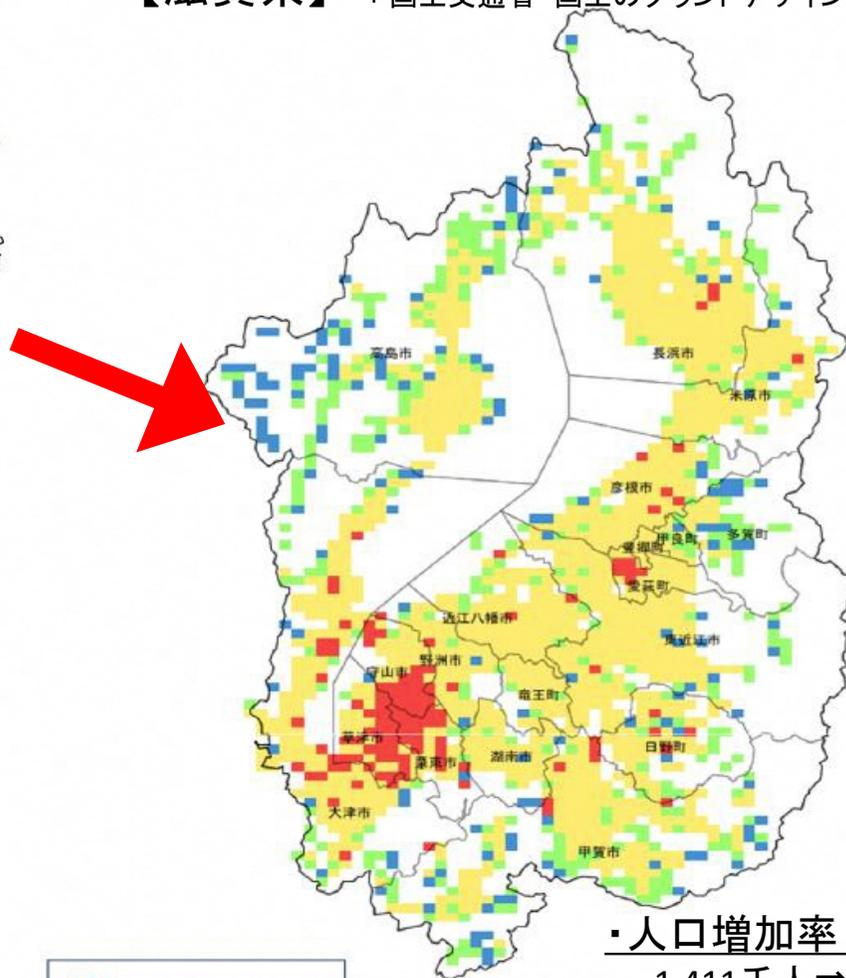
・人口増加率 $\Delta 24\%$

20,903千人⇒15,813千人

- ・2%の地点で増加
- ・48%の地点で50%未満の減少
- ・50%の地域で50%以上減少

【滋賀県】

* 国土交通省 国土のグランドデザイン2050 参考資料より



・人口増加率 $\Delta 13\%$

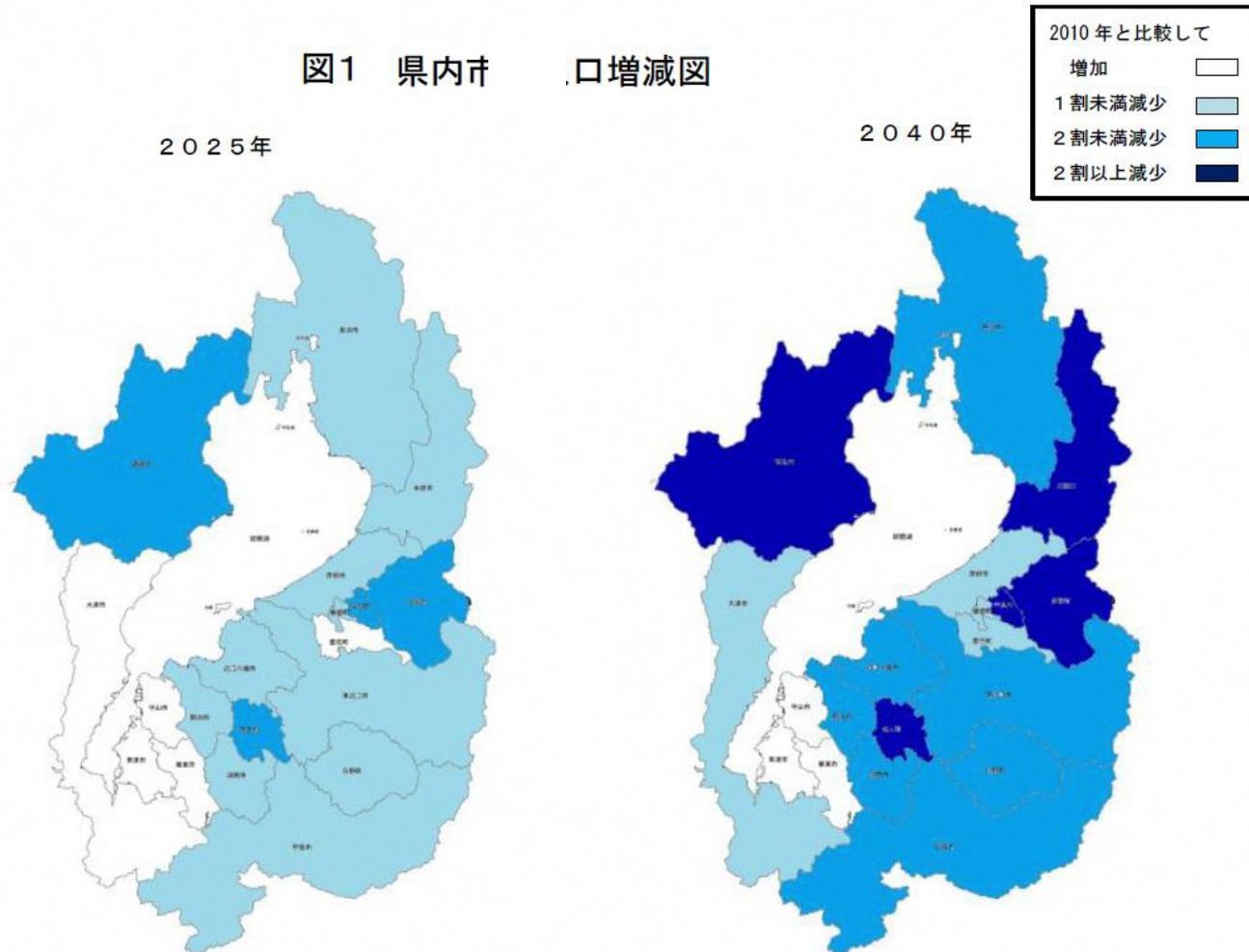
1,411千人⇒1,227千人

- ・7%の地点で増加
- ・65%の地点で50%未満の減少
- ・28%の地域で50%以上減少

滋賀県も人口減少へ

● 人口減少状況は市町によって大きく異なる

図1 県内市町人口増減図



2040年には、
湖南地域の
3市以外の
市町が2010年
人口より減少

※滋賀県HPより

滋賀県も人口減少へ

- 子育て世代の転入により出生数を維持、社会増及び自然増が続いてきた
- 京阪神のベッドタウン化による社会増が終わり、若者の転出超過も相まって社会減へ
- 出生数低下により自然減となり、本格的な人口減少時代へ

滋賀県の土地利用

● 市街地が拡散⇒人口減少局面の中、集約化が課題

【南湖流域】

農地が占める割合
38%から21%に
減少。

市街地が占める割合
15%から35%
に増加。

(1976→2014)

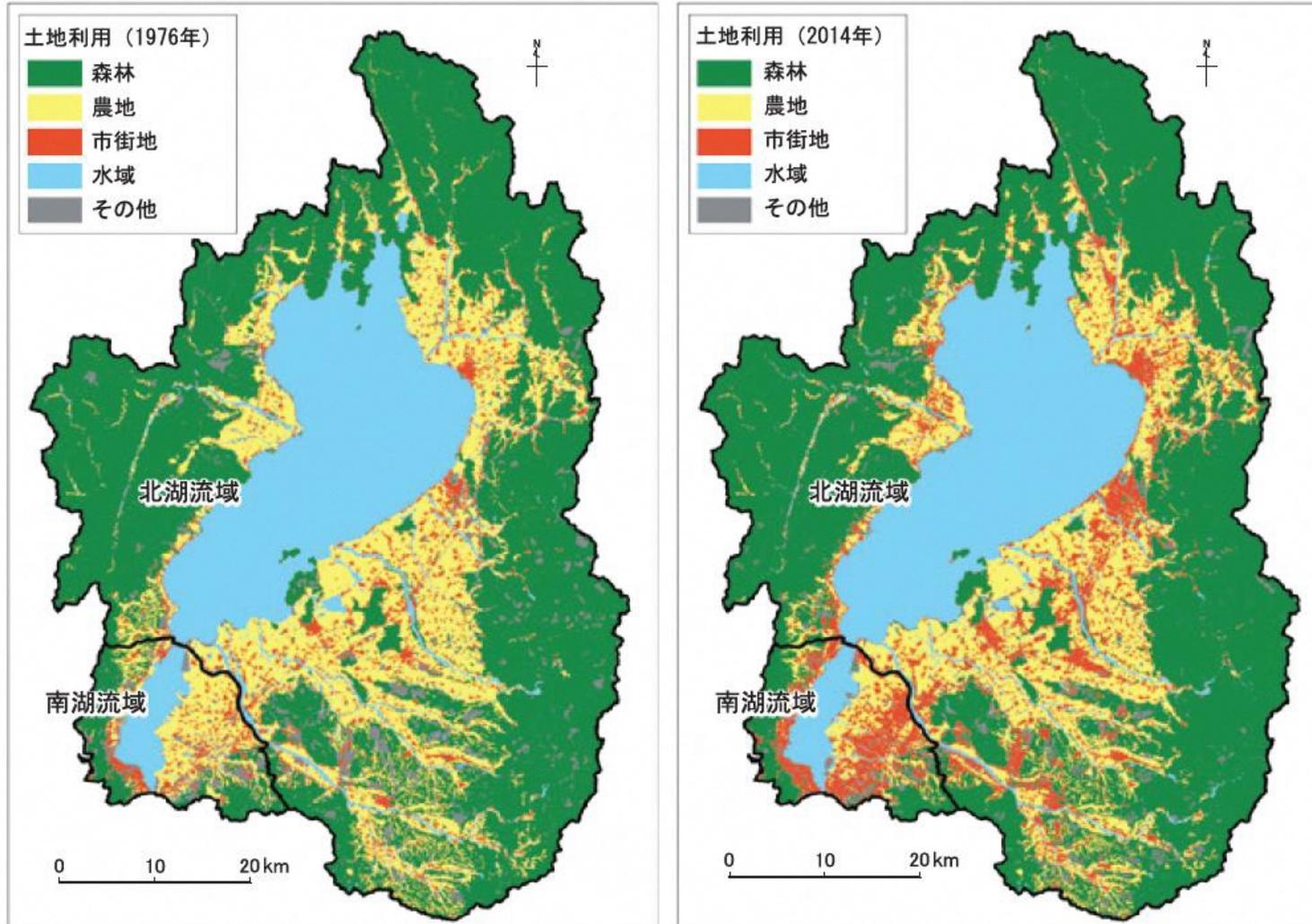
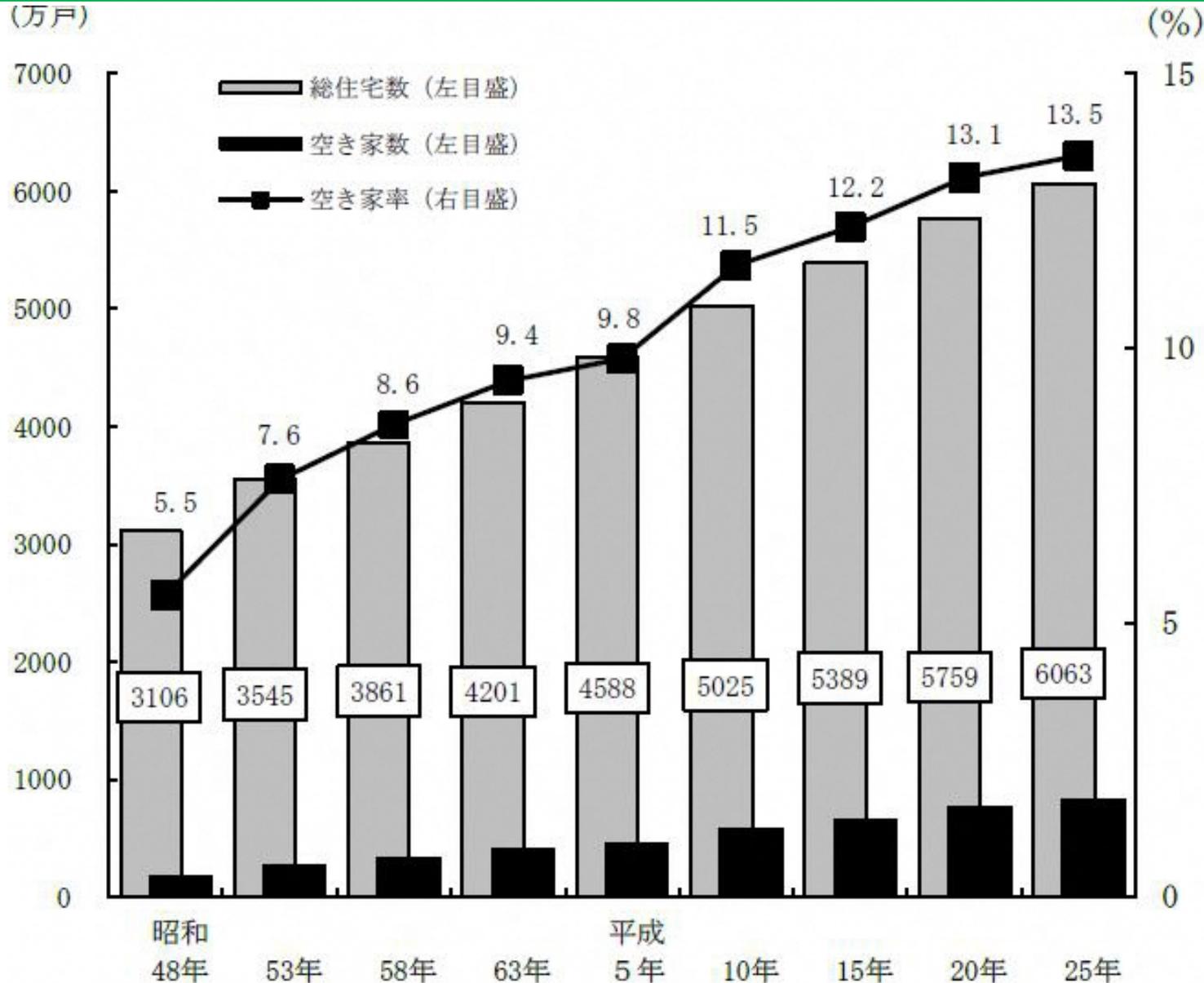


図4-4-1 琵琶湖集水域における土地利用分布の変化

出典:琵琶湖ハンドブック三訂版

図は、国土数値情報土地利用細分メッシュデータを利用し、琵琶湖環境科学研究センターが作成した。

空き家の推移



人口減少に伴い、2023年には世帯数も減少局面へ

↓
空き家率は更に上昇？

(資料:「平成25年住宅・土地統計調査報告」(総務省統計局))

滋賀県のまちづくりの課題

- 生産年齢人口の減少、高齢者の増加
- 経済活力の低下
- 地域コミュニティの弱体化
- 技術の継承が困難
- 社会資本の維持が困難
- オールドタウン化、ゴーストタウン化
- ...

滋賀のまちづくりはこれからどうすればよい？